◆競走部　激走の5秒前◆　第5中継点に金橋が近づくも、大保の姿が見えない。「靴紐がほどけそうで怖かったので、結び直していた」。まさに間一髪での襷渡し。好走の陰で、マイペースかつ慎重な性格が垣間見えた。

森 銅メダル

3位入賞を果たし笑顔を見せる森

◆森　健心（もり・けんしん）福岡県出身。実家に帰省していた時、体力を付けるため山でトレーニングをしていた。177㌢、90㌔

柔道部

◆10・31～11・1　講道館杯全日本体重別選手権兼全日本選抜体重別選手権（千葉ポートアリーナ）▼90㌔級❸森　国内ビッグタイトルの一つである今大会。90㌔級に出場した森健心（政経1＝大牟田）が1年生ながら社会人の選手を押しのけ、3位入賞を果たした。

けがを乗り越えて

まさかの出来事だった。相次ぐ大会の延期と中止により、森にとっては入学後初の公式戦。しかし、1年ぶりとなる試合を目前にすねを負傷。約10日間の入院を余儀なくされた。「勝つ、負ける以前に練習不足」。今まで経験したことのない、準備不足に苦しんだ。しかし「練習ができていない分、他のことをやろう」。試合に対する心持ちは揺るがず。可能な範囲でウエートトレーニングなどに励んだ。

準備不足吹き飛ばし鮮烈デビュー

挑んだ本番。3回戦で一本負けを喫するも「結果を出すならここしかない」。敗者復活戦に向けて気持ちをすぐに切り替えた。得意の組み手で常に試合をリードし、順当に勝ち進む。そして迎えた3位決定戦。対するは、高校の先輩でもある大町隆雄（山口県警察）。「勝つ自信はあった」と攻めの姿勢を貫き、開始3分52秒。相手が苦し紛れに繰り出した技を返し、縦四方固で一本勝ち。直前のアクシデントを乗り越え、3位入賞を果たした。

高校時代に比べ、積極的に技を掛けにいく姿勢を披露。進化した姿を見せつけた。その一方「もっと、もっとという欲が出る」。貪欲に自らを高め続ける。今大会の経験を生かし、ジュニア大会世界一を来年の目標に掲げる。期待のルーキーの躍進は、まだ始まったばかりだ。【都甲可奈子】

増山 神垣 表彰台 続々!!

90㌔級の増山主将（政経4）と100㌔級の神垣（商3）がともに3位入賞を果たした。昨年の同大会でベスト4に終わった増山。今年は順位を一つ上げ、表彰台入りを果たした。しかし「優勝しか見ていなかった」。大会後には悔しさをにじませた。一方の神垣は、過去2年の初戦敗退から飛躍。「我慢が利くようになった」。神垣の真骨頂でもある、しぶとく戦う柔道で3位を勝ち取った。

明大からは、出場選手が6名と少ないながらも3名が表彰台へ。健闘ぶりを見せ、今年最後の個人戦を締めくくった。

伊勢路で見せた100点駅伝

全日本 3位

3位でゴールテープを切る鈴木＜写真提供：EKIDEN News＞

6年ぶりの表彰台へ、伝統ある紫紺の襷が帰ってきた。今年度初の駅伝となった全日本大学駅伝。1区・児玉真輝（文1＝鎌倉学園）が好スタートを切ると、全員が果敢かつ堅実な走りを見せる。目標の5位以内を上回り、総合3位に食い込んだ。

競走部　第52回全日本大学駅伝対校選手権　11・1　熱田神宮西門前～伊勢神宮内宮宇治橋前

◆個人成績◆

区間	名前	記録
1区	児玉（文1）	⑤27分15秒
2区	小袖（政経4）	④31分45秒
3区	手嶋（情コミ3）	⑦34分11秒
4区	櫛田（政経2）	⑥33分55秒
5区	金橋（政経3）	⑦36分40秒
6区	大保（法4）	②37分27秒
7区	加藤（営2）	⑧52分30秒
8区	鈴木（政経3）	⑤58分41秒

◆総合成績◆

①	駒　大	5時間11分8秒
②	東海大	5時間11分31秒
③	明　大	5時間12分24秒

歓喜のゴール

レースの最終盤、アンカーを任された鈴木聖人（政経3＝水城）が吉田圭太（青学大）を捉えた。各校のエースが集結した激戦区で「戦うまでいけなくても、脅かす存在にはなれるかもしれない」。つないだ襷を一つでも前へ。その一心だった。

吉田を抜き3位に浮上した鈴木。〝3〟の指を強く掲げ、ゴールに飛び込んだ。「5番以内と言いながら、心の中では3番以内にけるんじゃないかと思っていた」（山本佑樹駅伝監督）。長い低迷期を経てつかんだ、歓喜の瞬間だった。

無名のスター

躍進の裏に1人の選手あり。指揮官から「今日のMVP」と評された大保海士（法4＝東海大福岡）だ。初めての伊勢路は3年前。ルーキーながら5区を任され、同期で最初の大学駅伝デビューを飾った。

しかしすぐ壁にぶち当たる。度重なるけがに苦しみ、思うように走れない日々。3年次の箱根駅伝予選会ではチーム最下位の305位にまで落ち込んだ。「もし自分が箱根駅伝を走れなくても……」。いつしかそんな弱気な言葉を吐いていた。

転機は今春。「最後の1年」と気持ちを入れ直した。チームは解散、記録会は相次いで中止と逆風続き。それでも前を向いて、大会直前には5000㍍、1万㍍ともに自己ベストをマークする。集団を先頭で引っ張る果敢さが実を結び、6区起用へこぎ着けた。

ラスト1㌔、ついに先頭に躍り出た大保。不安はあったが「出るしかない」。最終学年の意地がそこにはあった。「やってくれると思っていた」（金橋佳佑・政経3＝札幌山の手）。区間2位で走り抜けたその姿は、4年生の〝希望の星〟だった。「陸上人生最高の走りを」。最初で最後の箱根路へ、全力で挑む。

昨年度15位からの大躍進

勝負の箱根へ襷つないだ

躍進のメイジ

「点数は100点」（山本駅伝監督）。全選手が区間順位1桁台。15位に終わった昨年度と比べて、10分以上総合タイムを縮めた。「みんなが自分の仕事をしっかりした結果」（小袖英人・政経4＝八戸学院光星）。理想としてきた、ミスのない駅伝が形になりつつある。

「箱根駅伝では勝負に出る」（山本駅伝監督）。昨年度の箱根駅伝では絶対的エースであった阿部弘輝選手（令2政経卒・現住友電工）が抜けた今年度も、その勢いは止まらない。いざ72年ぶりの頂点へ、準備は整った。【仁科せい】

保が大活躍!!

〈写真提供：競走部〉

競歩・古賀 世界レベルの歩き

◆11・14　順大記録会（順大陸上競技場）▼男子1万㍍競歩❸古賀　古賀（商3）が世界新記録となる37分35秒をたたき出した。厚い壁として立ちはだかる池田（東洋大）を含め、2人の東京五輪内定者が出場した今大会。「ここで勝負できないと日本代表に絡めない」。意を決してスタートした。迎えた6000㍍地点。「自分の殻を破る」と先頭へ。五輪内定者2人の前に立ち、残り1000㍍までレースを引っ張る進化の走りを見せた。結果こそ悔しさの残る3位。だが「タイムも含めて想像以上」と手応えは十分だ。次は2月の日本選手権。自信を胸に、競歩界の星は歩みを止めない。

頼もしい同期と……成長の4年間集大成の銀

齋藤

カウンターが光った齋藤

◆齋藤　一樹（さいとう・かずき）千葉県出身。167㌢・66㌔

レスリング部

◆11・7～8　全日本大学選手権（東和薬品RACTABドーム）▼フリースタイル70㌔級❷齋藤　齋藤（文4）は危なげなく勝ち進むと、準決勝では竹内（徳山大）から素早くバックを奪い、わずか40秒で撃破。決勝では敗れたものの、自身初となる全国大会準優勝を果たした。

「得意のカウンターがうまくはまった」。その攻撃スタイルをものにしたのは1年次のことだ。膝のけがで2カ月ほど練習を離れた時期があった。それまでは勇気を持って攻め入る攻撃型。しかし「違う形で点を取れるように」。長所であるスピードを生かすため、カウンターの練習を開始。努力はすぐに実を結んだ。2年次の東日本学生新人戦では春秋ともに表彰台入りを果たすと、3年次には全日本大学選手権で3位。着実に実力を伸ばしていった。集大成となる今大会は自身最高成績。「すごく満足」。競技生活引退に花を添えた。

今大会をもって代交代。「粒ぞろい」（小柳監督）。そう評される今年の4年生。互いに刺激し合い、結果を残してきた。「同期全員でチームを支えた」。最後の年は多くの大会が中止に。心残りはある。それでも、支え合って部の中核を担った。「気負わずに頑張ってほしい」。最後は笑顔で、新チームにバトンを渡した。【福田夏希】

早大撃破

喜ぶ明大オフェンス陣

アメリカンフットボール部

◆10・11～11・29　関東学生秋季1部リーグ戦TOP8（※無観客試合のため、会場は非公開）▼❹明大　例年と大きく形式を変え、1ブロック4チームごとの総当たり戦で行われた。2戦目で今年からTOP8に昇格した桜美林大の勢いに押され、逆転負け。悲願の甲子園ボウル出場はかなわなかった。

夢破れたが、ここから奮起したグリフィンズ。ブロック最終戦では早大から秋シーズン9年ぶりの勝利を飾った。「素直にうれしい」。（山田主将・法4）。その後の順位決定戦で法大に敗れたものの、晴れやかな顔で戦いを終えた。

不本意に終わる

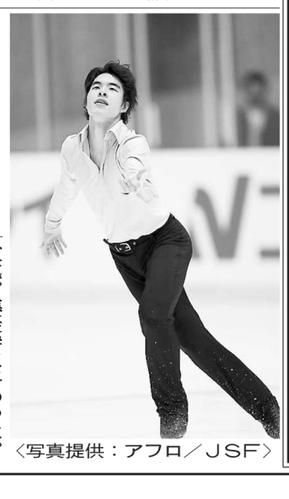
最後まで粘りを見せた金山

硬式庭球部

◆11・17～24　全日本学生選手権（四日市テニスセンター）▼女子シングルス金山、吉田明―3回戦敗退　厳しい結果に終わった。3回戦に駒を進めたのは女子シングルスの金山（政経4）、吉田明（政経3）。金山は肩の痛みに悩まされ、本来のプレーができず。不完全燃焼のまま引退を迎えた。また昨年、同大会で女子部初の4強入りを果たした吉田明も「悔しい気持ちでいっぱいです」。勝負どころのミスが響き、惜しくも敗退となった。

男子も2回戦までに全滅するなど、不本意な結果に終わった。それだけに「選手たちの意識改革が必要」（上原監督）。一からの再スタートを切る。

山隈が全日本へ



〈写真提供：アフロ／JSF〉

スケート部（フィギュア部門）

◆11・5～8　東日本選手権（小瀬スポーツ公園アイスアリーナ）▼❸山隈　SP（ショートプログラム）3位でFS（フリースケーティング）を迎えた山隈（営2）。「練習の成果を出せた」と全てのジャンプを着氷しフィニッシュ。納得の演技で、3年連続の全日本選手権出場を決めた。「全日本では100点満点の演技がしたい」。まだまだ残る課題を修正し、大舞台で完成形のプログラムを披露する。

つなぎの準優勝

打席に入る上戸鎖（農2）

準硬式野球部

◆10・25～11・1　木村杯秋季新人戦（早大東伏見グラウンド）▼❷明大　慶大との決勝は9―12で敗北。準優勝に終わった。「無駄な四球が多かった」（谷口・営3）と、投手陣の強化が課題として浮き彫りに。一方で打撃陣には光が見えた。3試合で計37点を奪取。来年へと弾みをつけた。「目標は日本一」（谷口）。実現には、2年生の活躍が必須だ。課題を克服し、さらなるレベルアップを目指す。

8年ぶり∨

弓道部

◆11・13　第50回全関東学生選手権（大宮体育館）▼男子団体❶明大　本来なら6月に予定されていた今大会。11月に延期しての開催が実現した。今年の初戦ということもあり、序盤から有力校が敗れる波乱の展開が繰り広げられた。しかし、明大はぶれることなく、序盤から安定した立射を披露。見事8年ぶり4度目の栄冠を手にした。中でも伊山（政経1）は16射皆中を達成。ルーキーらしからぬ落ち着きぶりが光った。最大の目標である12月の全日本学生選手権優勝に向け、大きな弾みをつけた。

もんじゃ・お好み焼
酒処 食事処 蔡
明スポ持参の方には お一人様2000円以上の場合 200円引き！！
TEL 03-3233-3332
〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台1-5-6

ライスカレーの店 まんてん でお腹もまんてん!
千代田区神田神保町1-54

本格 Italian Dining Quirinale クイリナーレ
〒101-0052
TEL/FAX03-3233-7828
東京都千代田区神田小川町3-16池久ビル 1F

麺ダイニング ととこ
OPEN 11:00～23:00（ラストオーダー 22:30）
TEL：03-5577-4404
〒101-0052 千代田区神田小川町 3-10-9
山形ととこ醤油ラーメン　780 円～
学生無料サービス（～16：00）
大盛・麦ごはん（おかわり自由）・薬膳玉子・ミニサラダから1つ自由に選べます！

師弟食堂（スカイラウンジ暁）
明治大学 リバティタワー17F 最高の見晴らしで おいしいランチを！
駿台スペシャル（450円）他
麺類・丼・週替わり定食など
メニューも豊富!!

部の団結に、部バイトを！
部バイトなら、プラスワン！
特典多数あります！！
まずは、お気軽にお問合せください！
㈱プラスワン
東京都文京区本郷3丁目4番地5　ハイムお茶の水4F
TEL03-5684-5115（代表）
http://www.plus-1.co.jp

大波いかり激嵐おどる大アジア
立て明大健児！ 頑張れ明大男！
徳島県出身 46年工学部卒
吉形孟美

目指せ、頂点。

明治大学オフィシャルサイトから
スポーツサポート資金　競走部　検索
皆様からのご寄付は競走部の強化に直接届く資金となります。
熱いご支援をよろしくお願い申し上げます。
明治大学体育会競走部 紫交会

レイアウト　金内英大